

## 稲城市立稲城第六中学校で

## 望月参事が

## 出張授業



稲城市立稲城第六中学校で授業する望月参事

東京都稲城市の稲城市立稲城第六中学校で7月6日、日本対がん協会の協力でがん教育の出張授業が行われた。

講師は、日本対がん協会の望月友美子参事で、全校生徒約450人を対象に、約50分の授業を行った。

望月参事は禁煙教育に長く取り組んできた経験から、タバコの害についての話を中心に授業を展開。タバコには200種以上の有害物質が含まれており、タバコを吸うことはそれを周囲にまき散らすことであり、吸った煙が全身に行き、様々な臓器のがんの原因になっていることを映像で示し、「タバ

コは万病のもとで、命が吸われてしまっていることになる」と強調した。

そのうえで、がん細胞は、正常な細胞と元は同じ設計図なのが、遺伝子に傷がついて、不ぞろいな形で異常に増えていったものであることを説明。がん細胞が小さいうちに検診などでみつけて早く治療すれば多くが治せる病気になってきたことやがんを防ぐには生活習慣の改善が大切であることを解説した。